

農業試験場跡地有害物質汚染に関する私見

(安溪氏聞き取り証言に対する意見書)

- 1 証言者は、有害物質処理の状況を知る当時の職員は、全て亡くなっていると証言していますが、ある程度事情を知る人は、かなり多くいると思います(別添農業試験場百年記念誌参照)。
- 2 水銀、ヒ素、青酸等の製剤を、全て地下に埋設又は深井戸に投入したように、証言していますが、一部については、私も埋設した噂を聞いていますが、全てではないと思います。
- 3 例えば、水銀製剤(昇こう)は、粃の種子消毒剤としてかなり後年まで、A地点付近の病害虫作業舎で使用されており、廃液は垂れ流し状態であったのではないかと考えられます。
- 4 B地点の北側は、以前は果樹園があり、B地点は農業研修所が管理していた生ゴミ捨て場付近で、農業試験場職員が、農薬を投棄したとは考えにくいです。
- 5 焼却炉があった場所は、B地点ではなく、C地点と書いてあるCの文字の北側地点です。こちら辺に、何か埋めたような噂は、私も聴いた様な気がします。
- 6 青酸ソーダは、害虫予察灯にきた虫を収集するために、かなり後年まで使っていました。C地点より1m位下地の北側にある作業舎で、保管や現地への移送のための作業をしていたと思われる。
- 7 C地点は、おそらく実験棟外側東にある洗浄場と思われ、各種化学物質が、排出された可能性があります。青酸ソーダを多量に投棄したとは、考えられません。
- 8 化学実験室からの排水は、C地点よりも東側にある深井戸に入り、この上澄みが、図書館前の水槽に入って、ポンプで前庭池に送り込まれた後、問田川に流していたと認識しています。大量の青酸が入れば、池の魚に影響が出るはずですが、その様なことは噂でも聴いていません。重クロム酸混液の洗浄液が使用されていたので、重金属は底に沈殿している可能性があります。法律で管理義務が生じた後は、定期的に水質検査が行われました。
- 9 公舎に住んでいた職員の元気であった娘さんがなくなったことは事実です。病気は尿が出なくなったこと(多分腎不全)ですが、原因は不明です。農薬を地面に埋めたという噂との因果関係は不明ですが、その汚染が原因ではないかという噂はありました。後になって、公舎の飲料水配管に、本来接続していない井戸からの接続が判明して、市水道に切り替えられました。試験場の用水は、配管の腐食による錆汚染と多数の水漏れが原因で市水道を使うようになりました。
- 10 無機水銀が、土壤の水分測定器のマノメーターに使われていました。ゴミが入って汚れた時ビーカーに入れて水で洗浄していたので、多少排水に交じって、排出した可能性があります。
- 11 昭和43年まで使われていた旧本館が、B地点の北西側(農機具研修場)にあり化学実験室があったので、実験室から排出された有害物質が残留する可能性が否定できません。
- 12 非密封の放射性物質は使用する施設がないので使っていません。密封線源はNi⁶³をGCに使っていましたが、汚染の恐れはありません。
- 13 農業研修所2階に化学実験室がありました。排水が何処に繋がっていたか知りません。農業試験場の深井戸系の水系に繋がっていたのかもしれない。

- 14 農業試験場の各研究室で使用する農薬は、各研究室管理の作業舎や倉庫に保管されていました。農場管理室の倉庫には、各研究室の農薬を自由に保管・利用できるシステムになっていました。それらの場所では、農薬の袋や瓶から、粉末や液体を取り出し秤量して、使用していましたので、こぼれることも多々ありました。また、古い農薬の袋が破損して、こぼれた可能性もあります。作業舎や倉庫解体時に、床に落ちていた重金属の含まれる農薬が、土壌表面に落下して、汚染された可能性が考えられます。作業舎や倉庫の位置と有害物検出位置との関連が重要になるのではないかと推察いたします。

元農業試験場職員 平松禮治